## Network Security Firewall

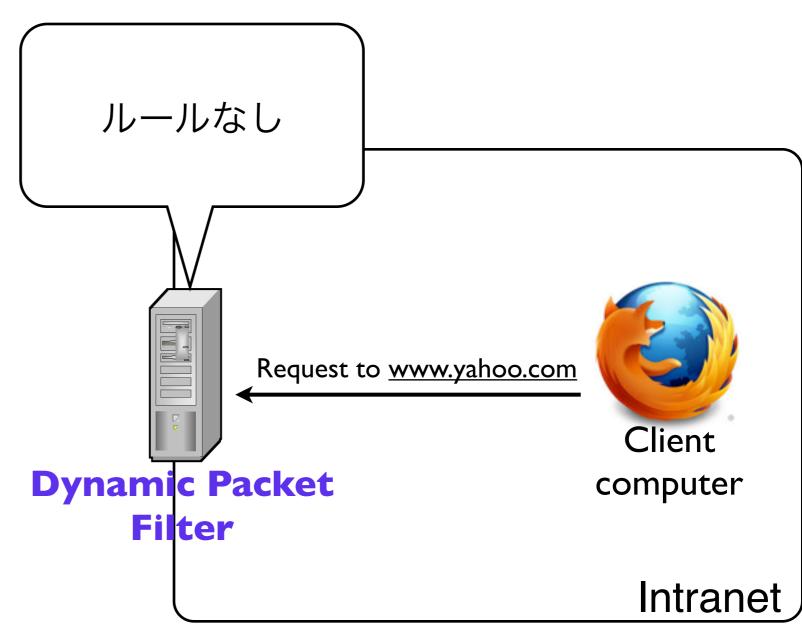
総合情報学科 セキュリティ情報学コース

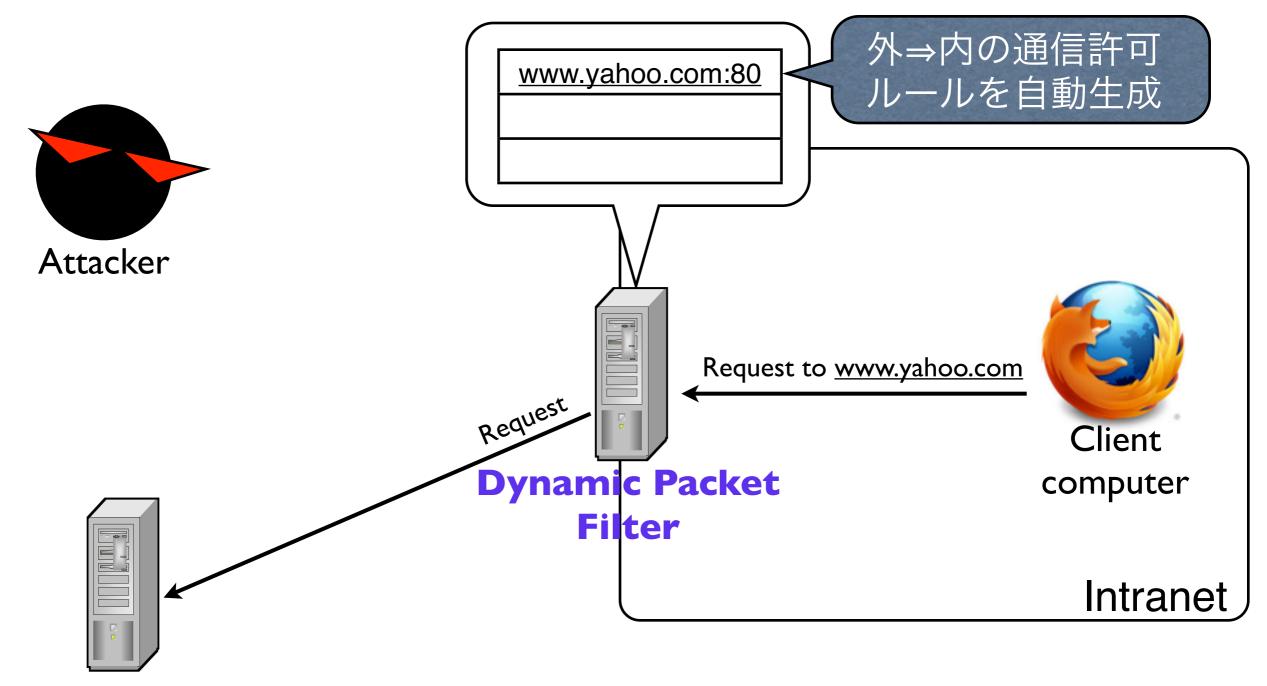
- Static packet filtering
  - → Ruleを管理者が定義
- Dynamic packet filtering
  - ⇒ Rule(Access control list(ACL))を動的に生成
    - Firewallの運用負担低減
  - 内⇒外の通信要求を監視、そこから外⇒内の あるべき応答packetを決定し、該当返答のみを 通信許可するよう規則を自動生成



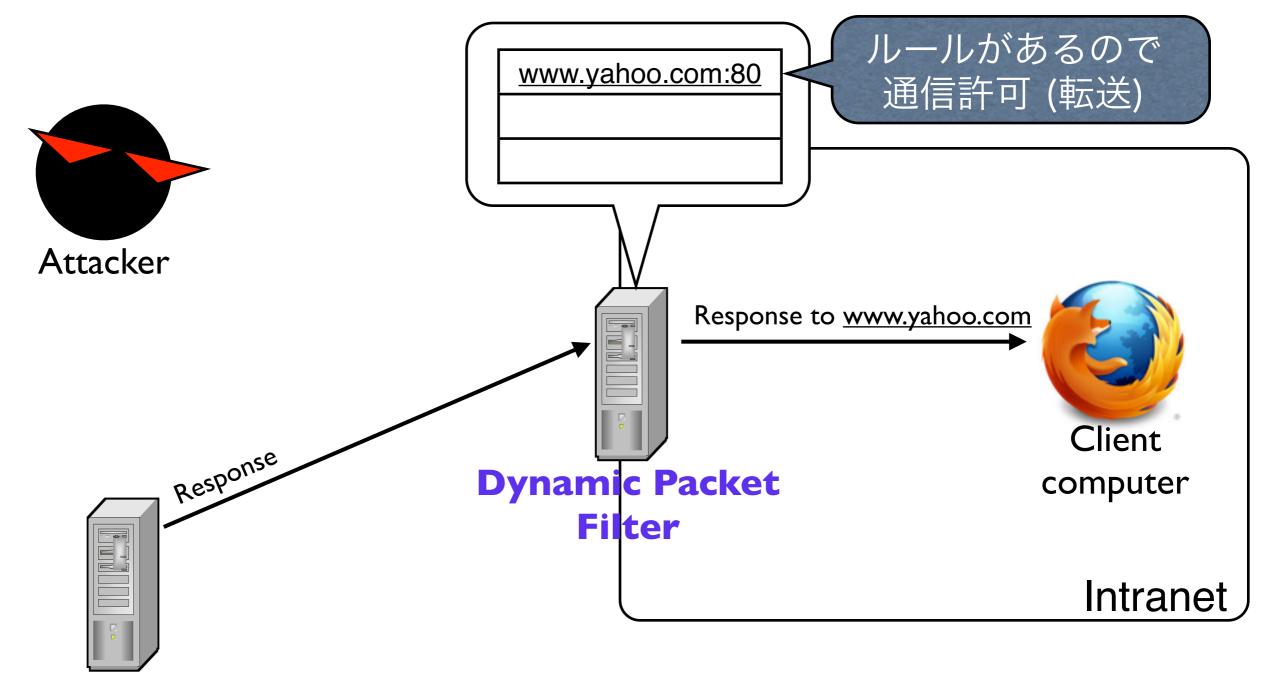


Yahoo web server

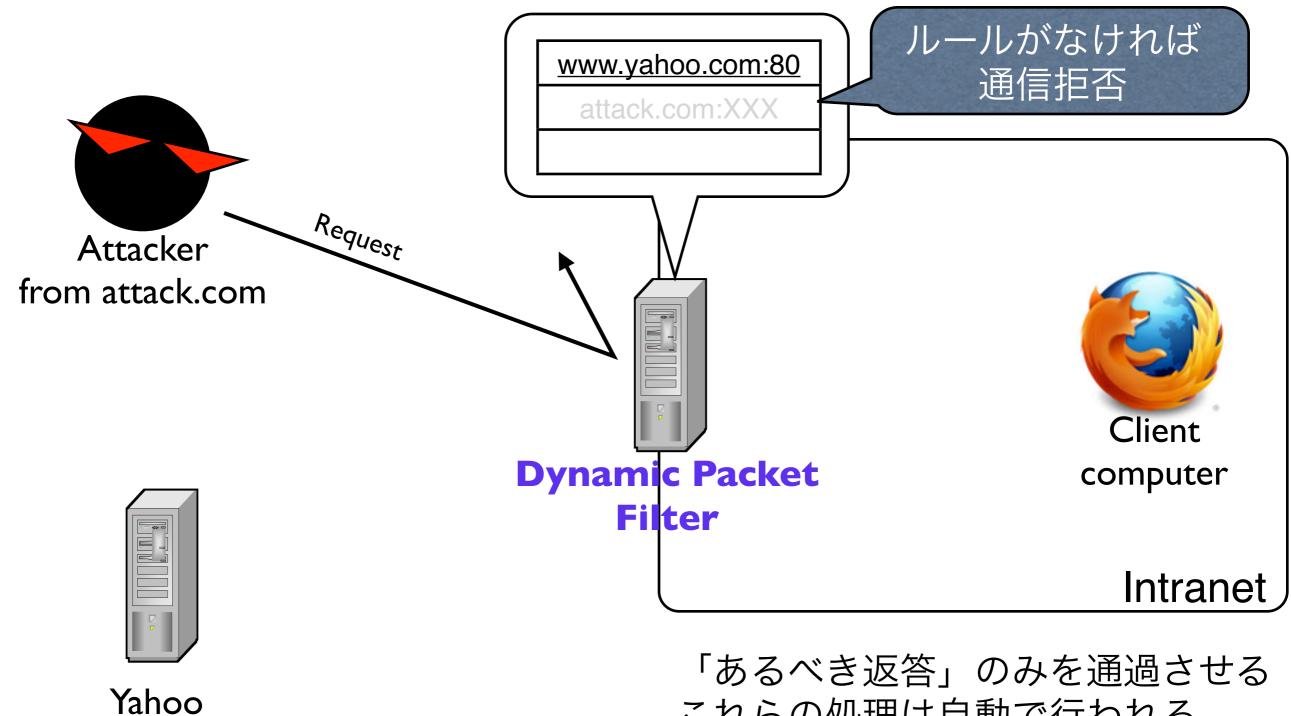




Yahoo web server



Yahoo web server



これらの処理は自動で行われる

web server

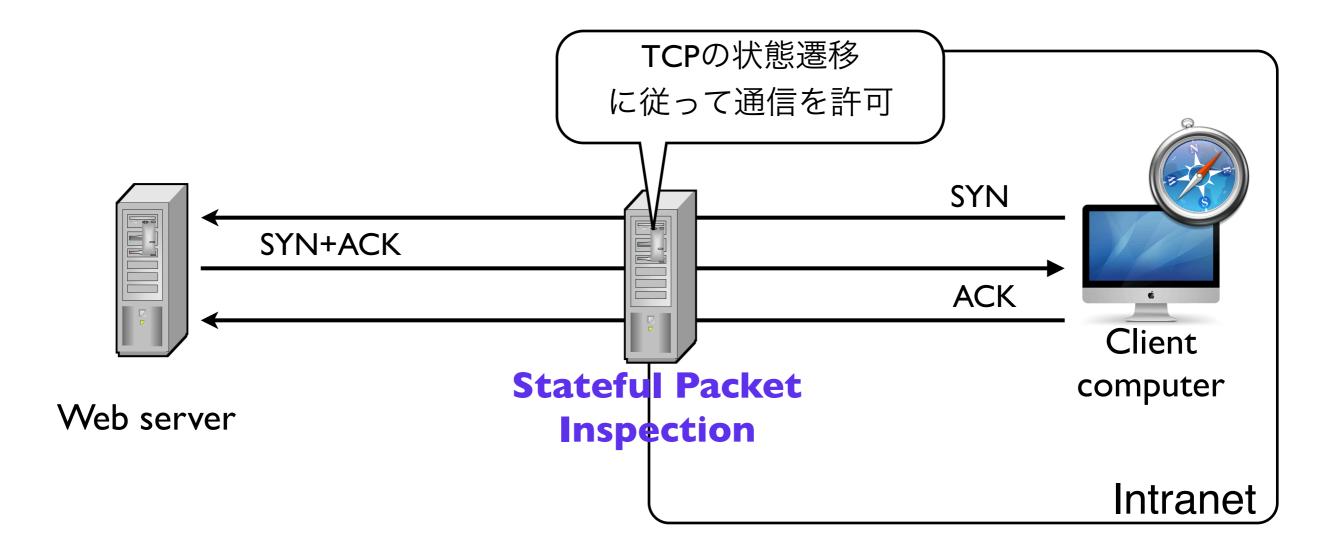
## Stateful Packet Inspection(SPI)

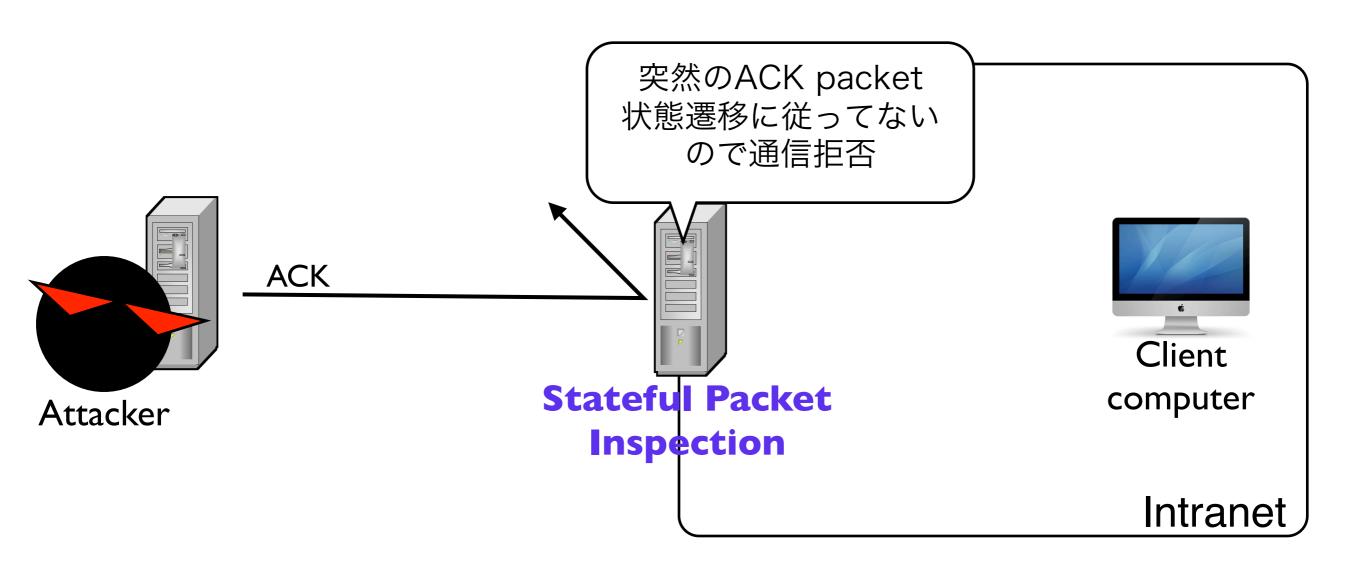
- Dynamic packet filteringの一種
  - 以下の情報を条件設定に利用
    - TCP接続状況 (3 way handshake)
    - アプリケーションプロトコルの既定の振る舞い
  - 状態遷移表に基づき、正常な状態遷移に 従っているかで通信可否を決定

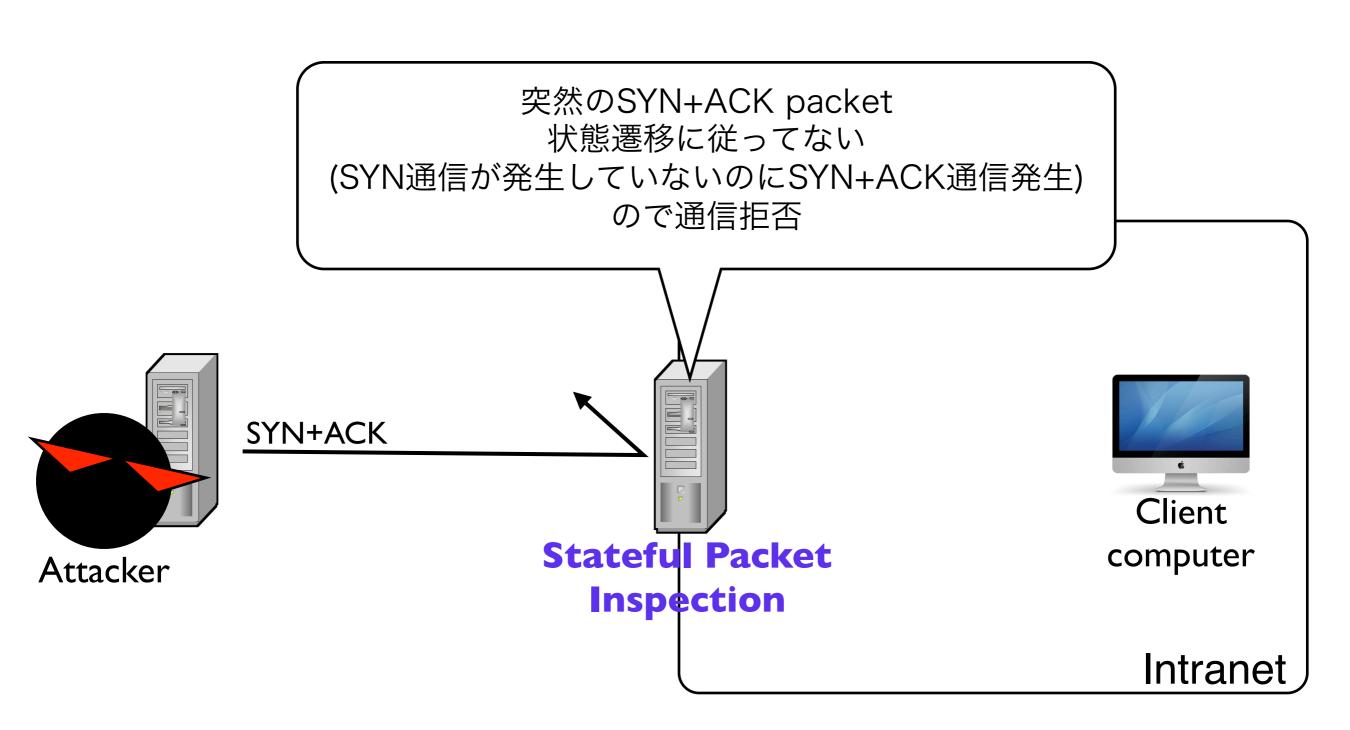
(2001/7/17), @IT, FTP(File Transfer Protocol)前編, <a href="http://www.atmarkit.co.jp/fnetwork/rensai/netpro10/netpro01.html">http://www.atmarkit.co.jp/fnetwork/rensai/netpro10/netpro01.html</a>

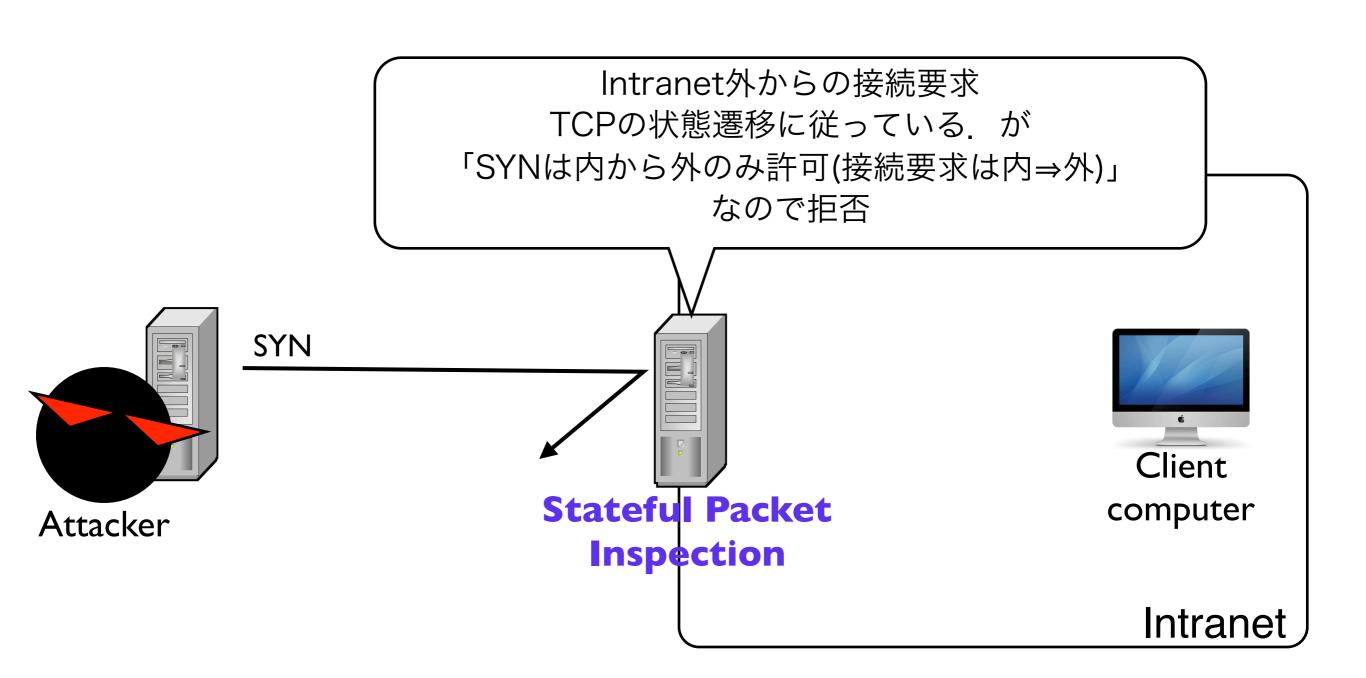
TCP接続(Web)の場合

Clientからの接続要求で3 way handshake (状態遷移)





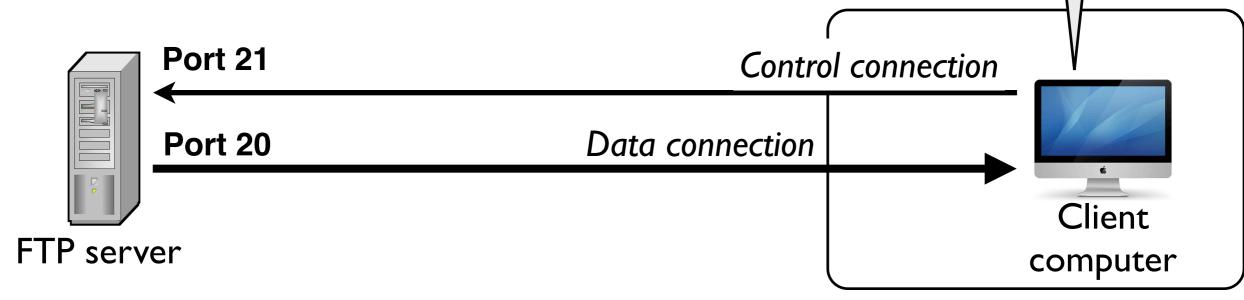




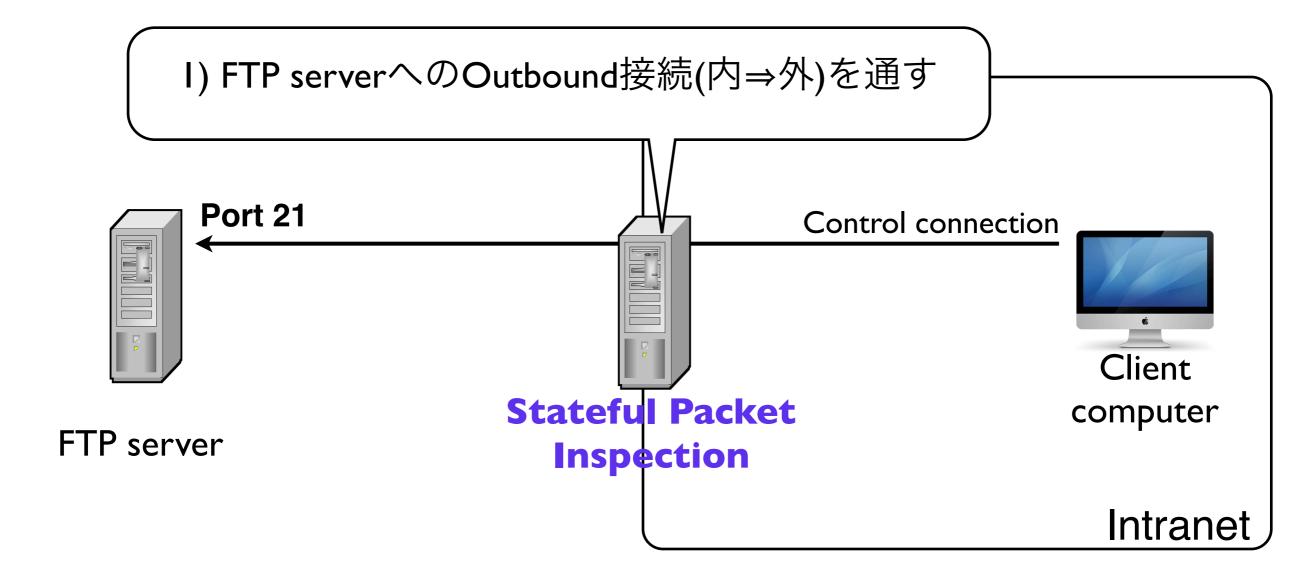
FTP(File Transfer Protocol)の場合

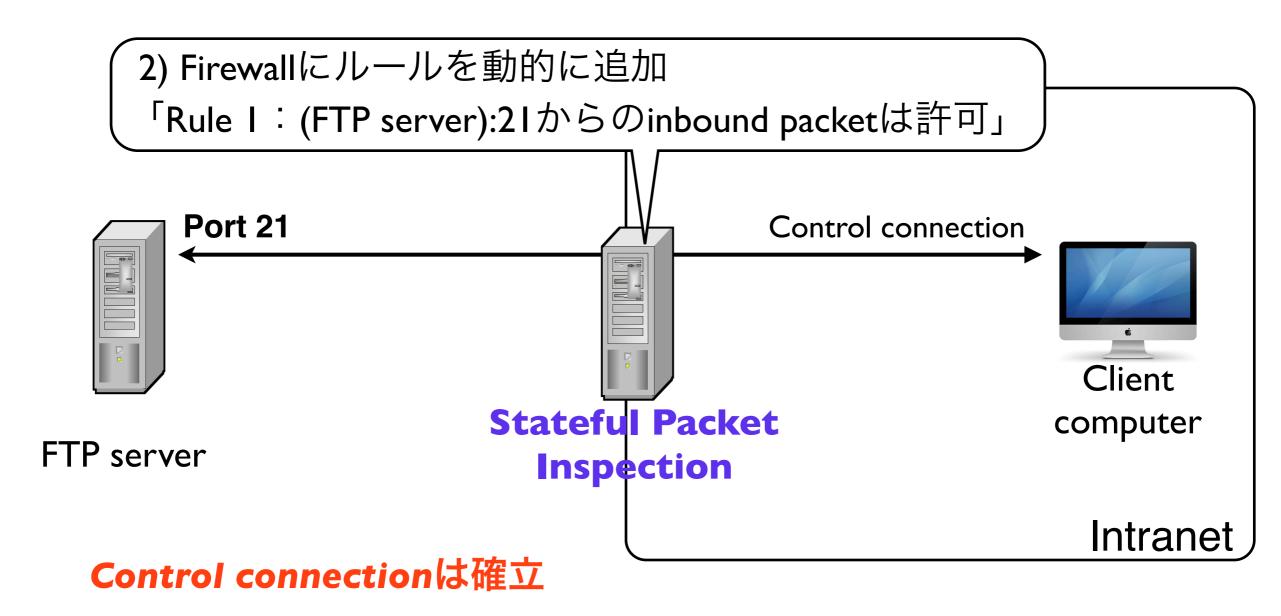
- 2つのconnectionを利用
  - Control connection コマンドのやりとり
  - Data connectionデータ(File)の転送

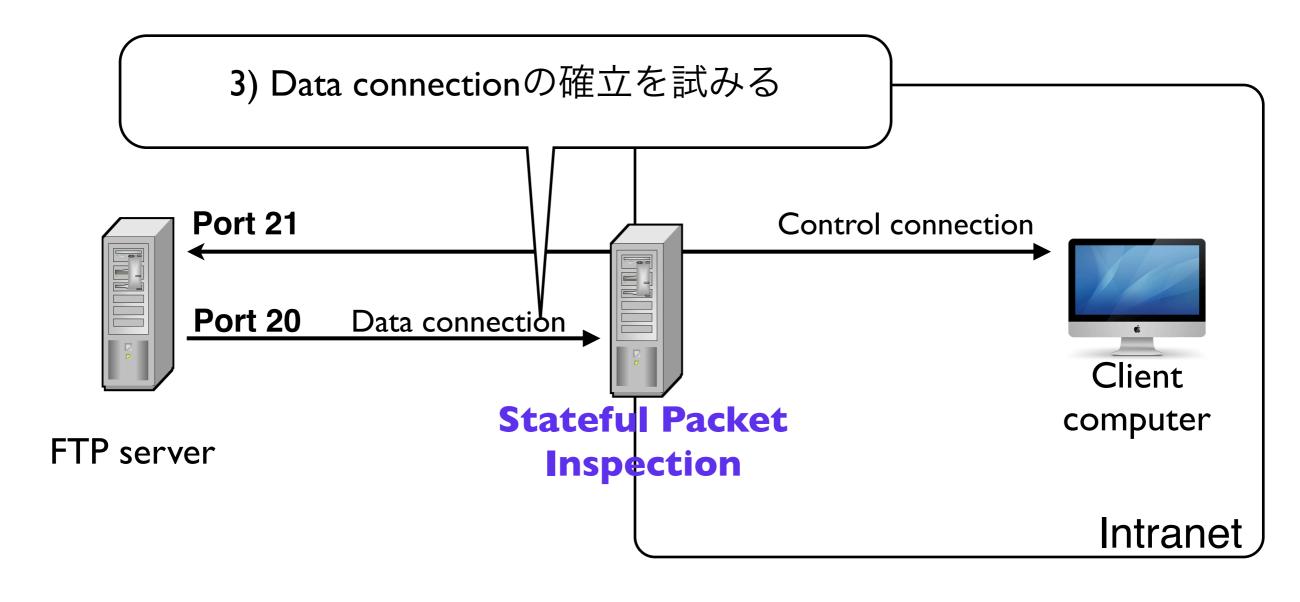
FTP Protocolの仕様
Control connectionは
(内⇒外: outbound)で確立.
Data connectionは
(外⇒内: inbound)で確立

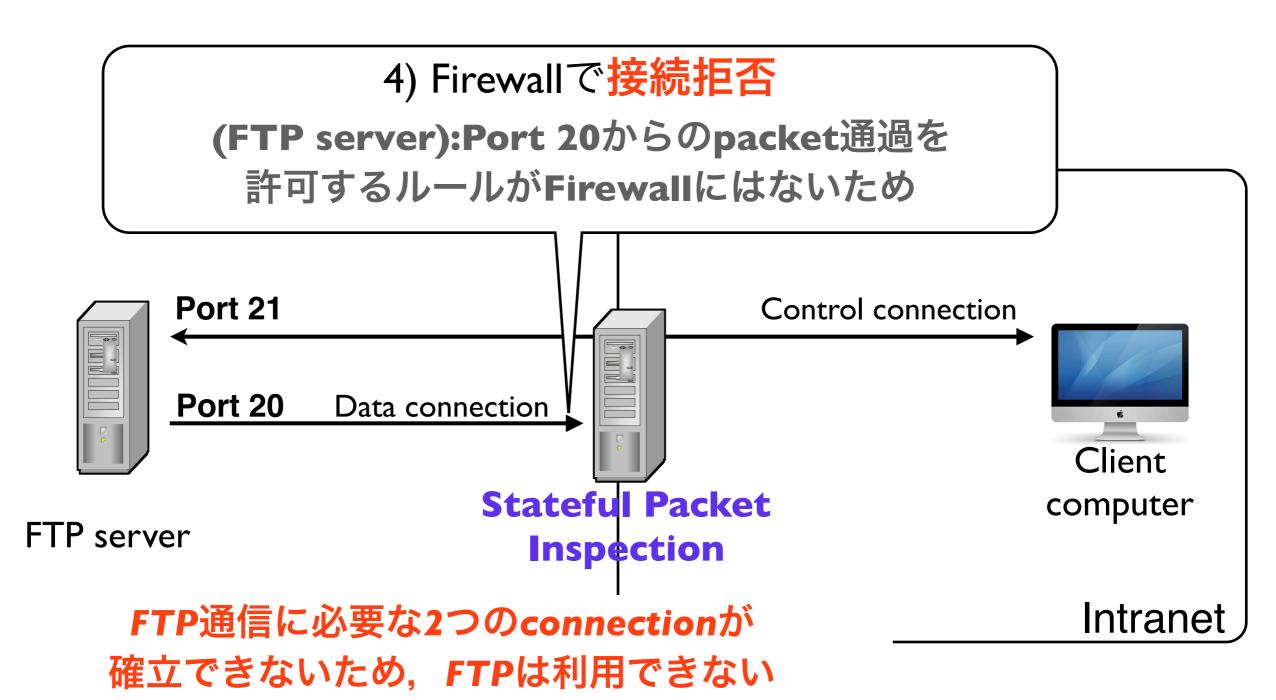


「SPI 型 Firewall経由ではFTPが使えない」 を説明







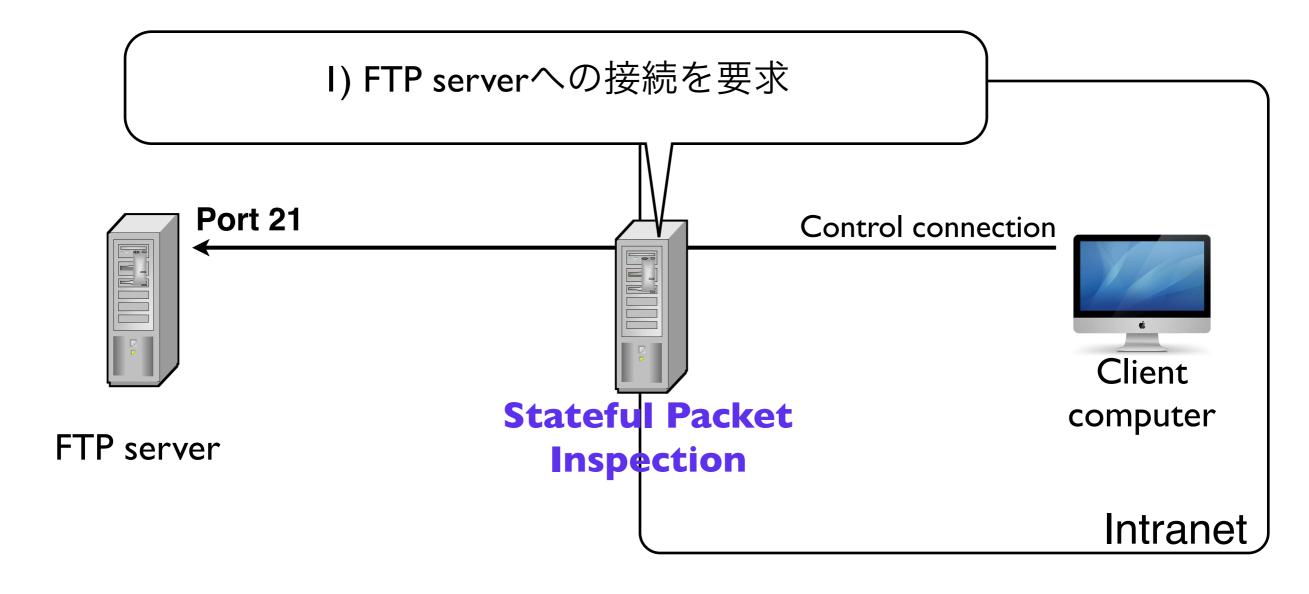


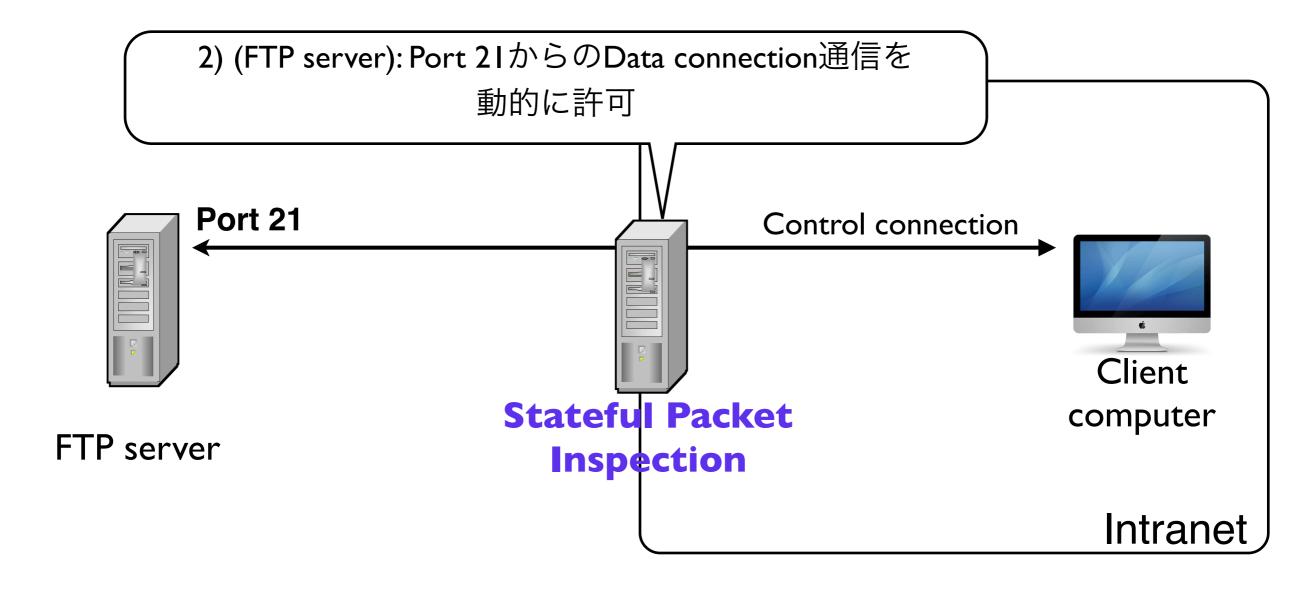
#### 対応策は2つ

- SPI側での対応
   SPIにおける動的規則生成に「TCPの接続手順」
   だけでなく「FTPの振る舞い」を配慮させる
- FTP側での対応
   FTPを改良し、SPI 経由でも問題なくFTPを 利用できるようにする
   ⇒ PASVモード

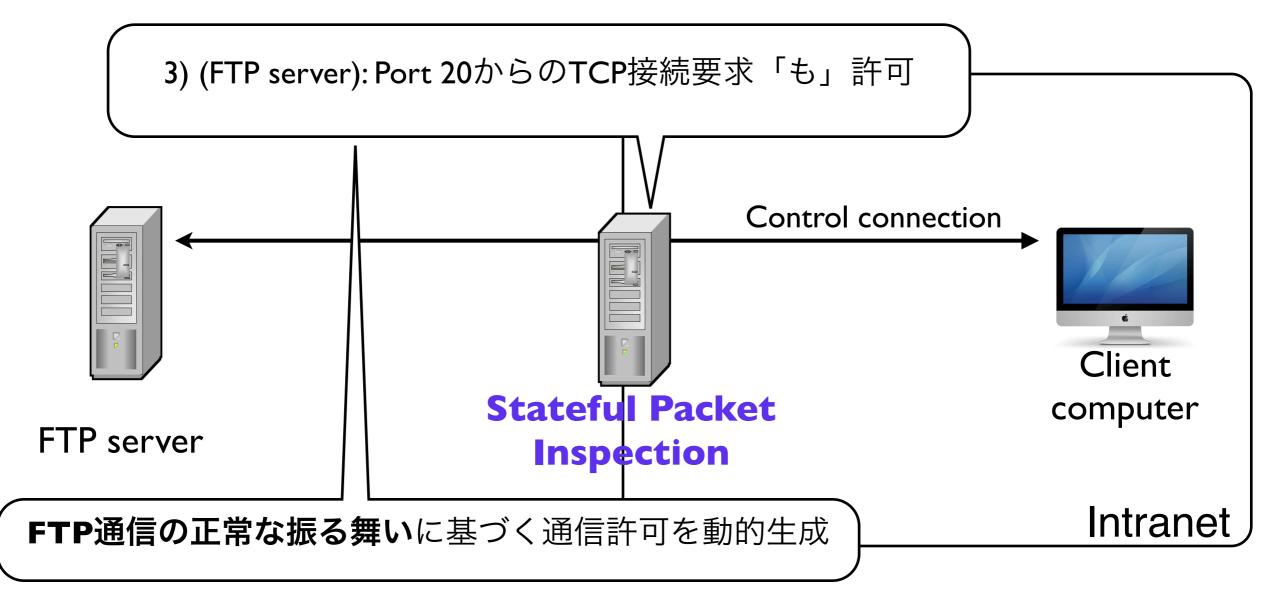
今回は「SPI側での対応」を説明

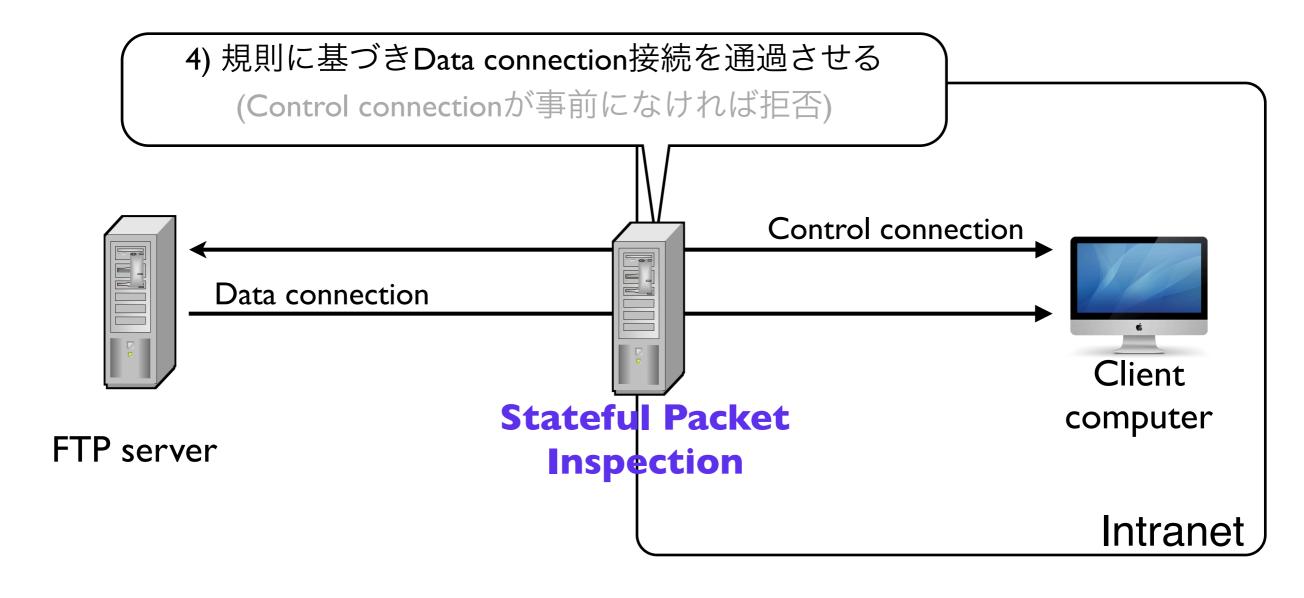
SPI 型 Firewallでの対応





FTPの正常な振る舞いを想定した 動的な規則生成





## dynamic packet filtering 参考資料

- (2009/08/12) 不正アクセスを防ぐFirewallの仕組み
- http://ascii.jp/elem/000/000/447/447615/
- 第2回: SPIと動的パケットフィルタリングの違い
- http://plusd.itmedia.co.jp/broadband/0305/16/lp13.html
- ITPro, Security用語辞典, ダイナミック・パケット・フィルタリング
- http://itpro.nikkeibp.co.jp/word/page/10006000/

## Firewallの限界

- Network Securityにおける基本防御システム
  - → ルールに基づいて通信制御
  - → ルールが適切に定義されている必要性あり
- 適切に運用(ルールを適用)すれば、外部からの 不正なアクセスに対し効果発揮
  - ⇒逆も真なり (例) <u>http://blog.ohgaki.net/waf</u>
  - 逸話:「穴だらけFirewall」⇒設置はしたが、ルールゼロ
  - 検証は必ず必要:意図した通りの制御動作か?

## Firewallの限界

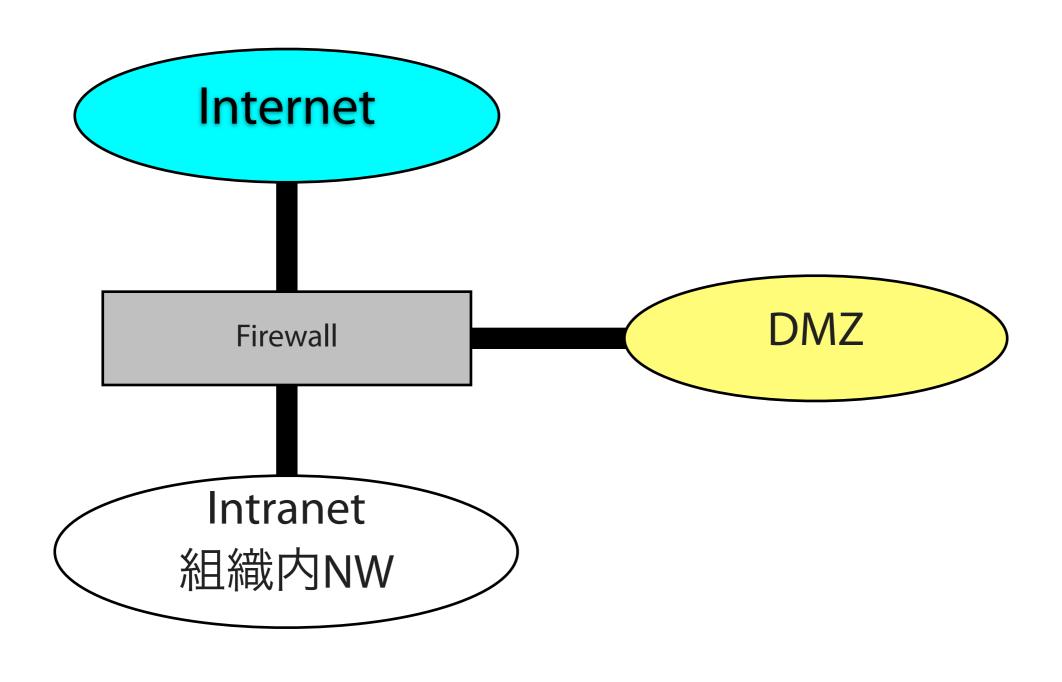
- 許可している通信を利用した攻撃は防御不能
  - 電子メール(smtp), Web(http)経由の攻撃は別の 対策が必要
  - DoS攻撃、AFにおける暗号化通信(VPN, SSL)
- Backdoorを誘因
  - DMZやIntranet内に無線LANや通信Modemを設置Firewallを迂回可能に 

    組織内調整を密に

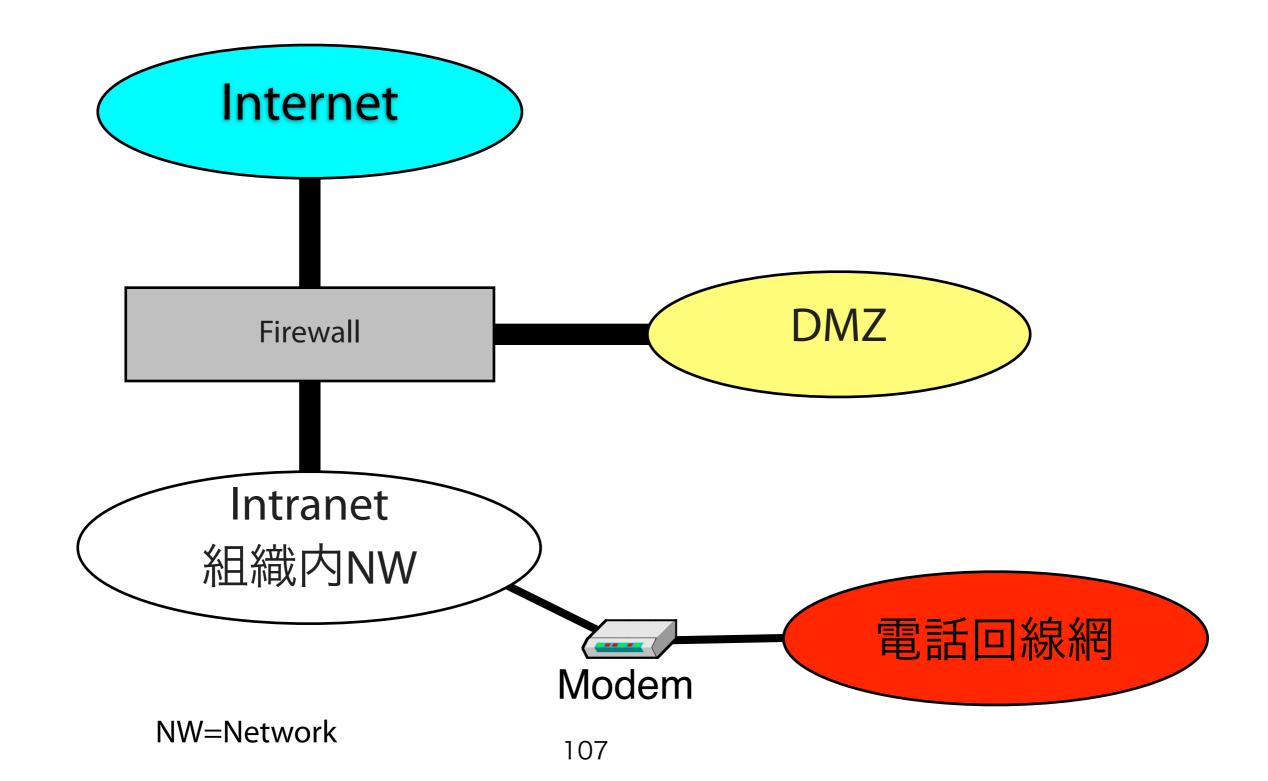
### Backdoorとは

- 不正侵入に成功した侵入者が行う行為の1つ
- 以降の侵入のために、今回の侵入方法とは別の 侵入口を新たに設置する行為
  - 別の侵入口 ⇒ Backdoor (裏口)
- なぜ設置?
  - 侵入が発覚すると、その侵入口は塞がれる
  - 別の入り口(裏口)を用意しておけば、そうなってもまた侵入できる

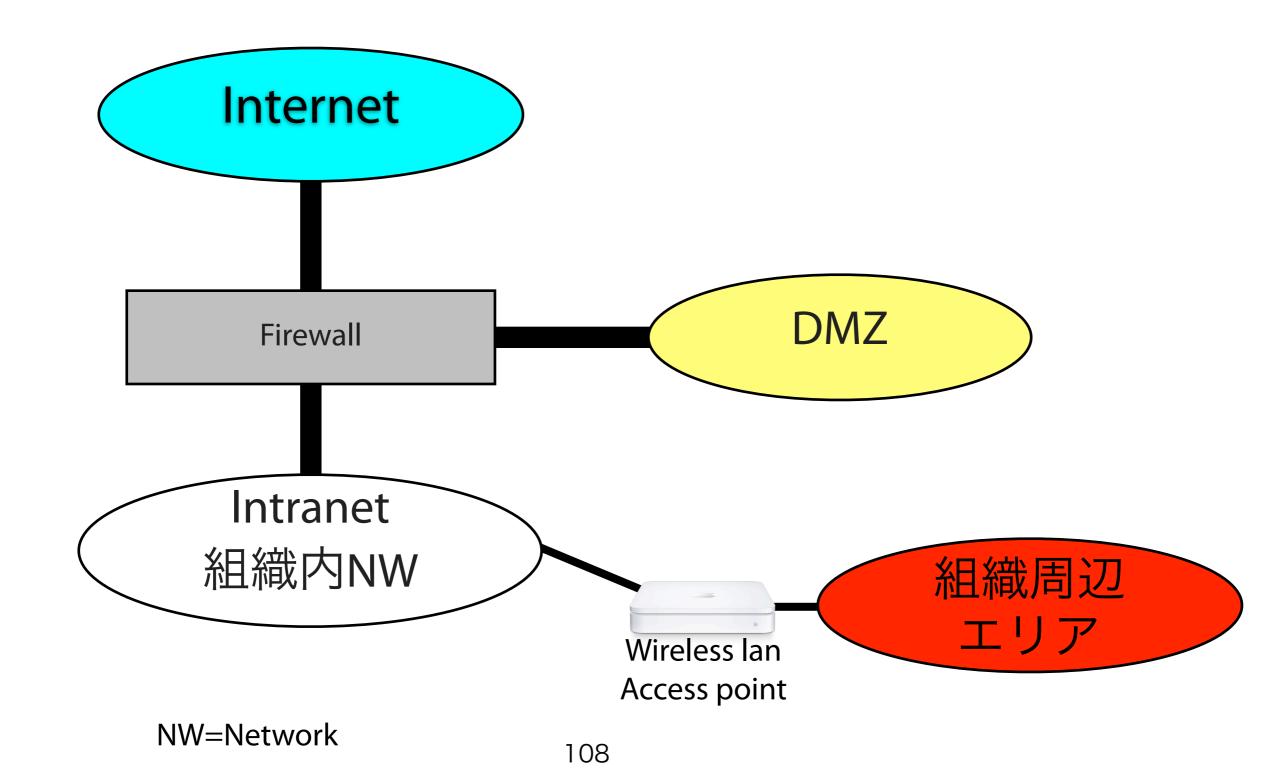
## Firewall回避のBackdoor



## Backdoorの方が容易



## Backdoorの方が容易



## Firewallの限界 (cont.)

- 内部⇒外部へのアクセス制御
  - ルール定義なし/ゆるくなりがち。そこをついて受動的攻撃 が発生する可能性 (Spyware/Bot)
- Firewall自体の脆弱性
  - Firewallはsecurity対策機器 = 脆弱性はない。ではない
  - 脆弱性管理 / アップデートは必要
  - (2007/07/11), Microsoft, Windows Vista firewallの脆弱性により、情報漏えいが起こる, <a href="http://www.microsoft.com/japan/technet/security/bulletin/ms07-038.mspx">http://www.microsoft.com/japan/technet/security/bulletin/ms07-038.mspx</a>
  - (2005/09/01) ITPro, Windows firewallに不具合、設定画面に表示されない「例外」を 作成できる, <a href="http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20050901/220450/">http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20050901/220450/</a>
  - Brothersoft, "Leopard"のfirewallに早くも問題が発覚、<u>http://jp.brothersoft.com/show-news/1028.html</u>

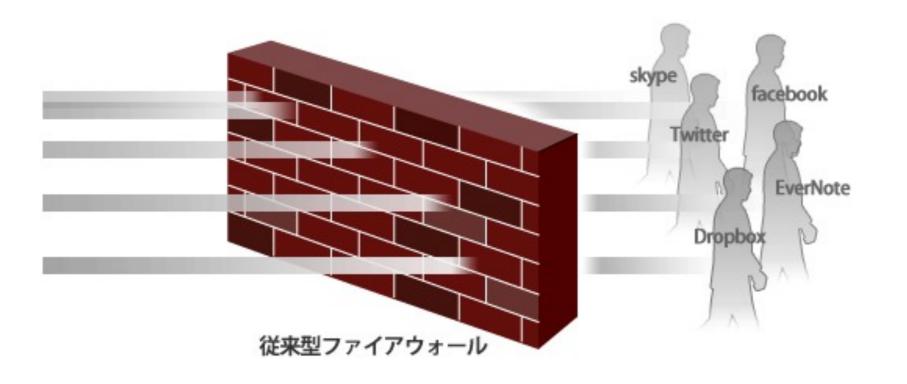
## Firewallの今後(1)

- 現状の問題
  - 通信許可しているプロトコルを利用した攻撃への対策
    - Web(http), E-mail(SMTP), SSHなど
  - 通信許可しているプロトコルを使用した通信制御迂回への対策
    - HTTP-ProxyやVPN, ssh port forwardingなど
- 従来: Packet header(荷札)で通信制御
- 今後: DPI (Deep Packet Inspection)へ
  - 通信トラフィックからアプリケーションを識別、制御
  - アプリケーション、利用者、コンテンツでの通信制御
  - Not only in-bound traffic, But also out-bound traffic

## 最近の問題

従来 Iつのポートに I つの アプリケーション

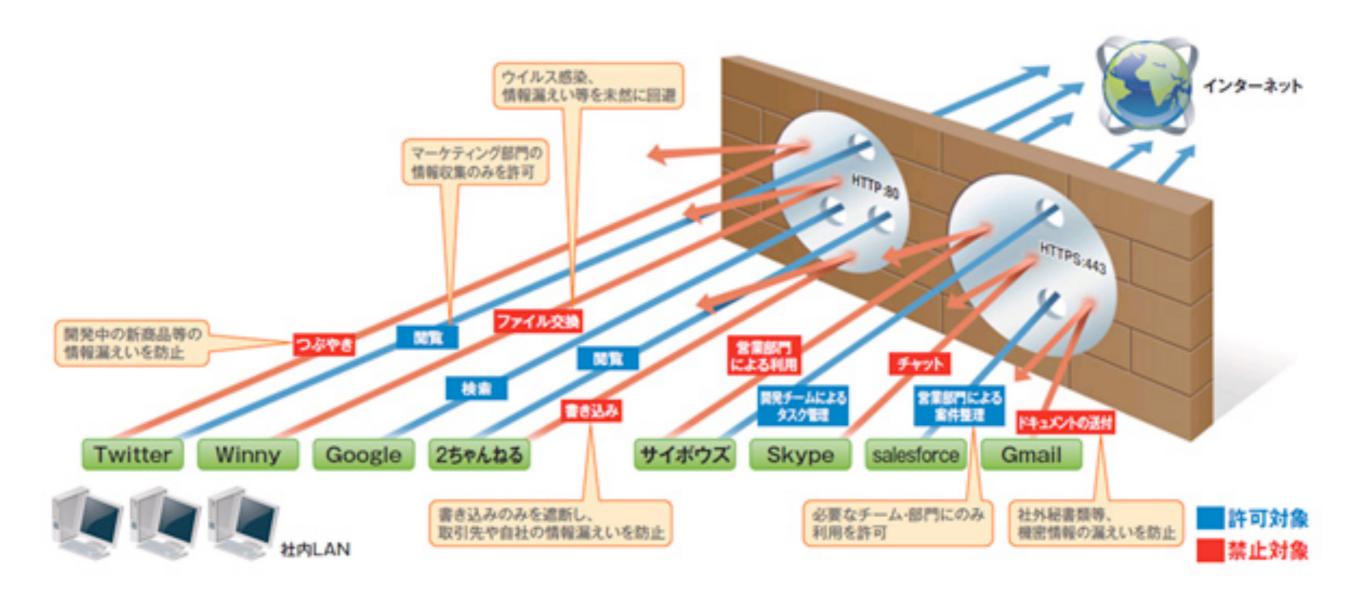
最近 Iつのポートに複数の アプリケーション



ポート番号で アプリケーションの 通信制御が困難 特にHTTP(80)

図引用: 日立ソリューションズ, 次世代firewallとは? http://www.hitachi-solutions.co.jp/paloalto/sp/firewall/firewall.html

## 次世代firewall



通信トラフィック内のアプリケーションを識別、制御 (アプリェユーザェ読み書きで制御)

## 参考文献

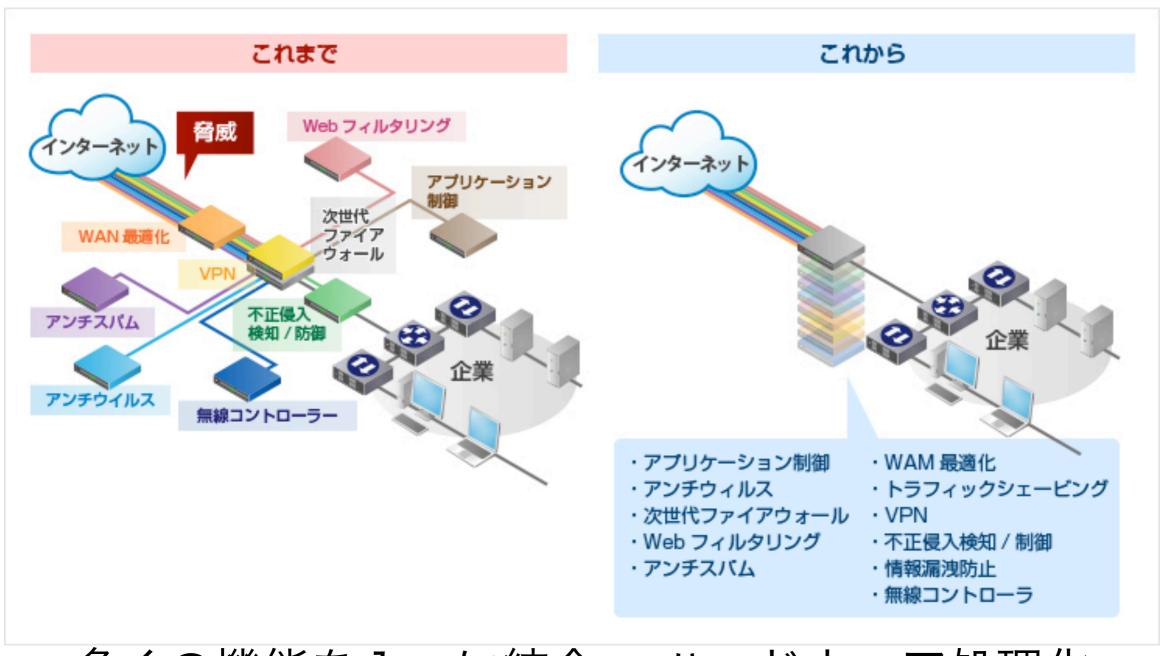
- Defining the Next-Generation Firewall
  - John Pescatore, Greg Young, Gartner, Oct. 2009.

## Firewallの今後(2): UTM

- 統合脅威管理 (Unified Threat Management)
  - →通信制御だけから包括的な対策の実施へ
    - Firewall + Anti-SPAM + Anti-Virus + 不正侵入検知/防止 + Content filtering
  - Firewall単体機能から、一台の専用機器で上記すべての処理を実施
    - Defense in Depthの多くの層を担う機器へ
  - Security対策が一極化、人材、管理コスト的にメリット
    - 中堅、中小企業には効果あり

(2009/01/30), ZDNet, 次世代firewallとは何か? - 第3回: firewallの停滞と進化、 http://japan.zdnet.com/security/sp\_next-firewall-2009/20387398/2/

## UTMイメージ



多くの機能を1つに統合+ハードウェア処理化

図引用: http://cas.softbank.jp/services/vappliance/products/category/utm.html

# 侵入検知・防止システム

情報理工学部 総合情報学科 先端工学基礎課程

## 侵入検知システム

- 英語名: Intrusion Detection System (略称 IDS)
- ・不正行為を迅速に「検出」し、

セキュリティ管理者に「通**欠**」するシステム

## FirewallとIDSの違い

#### Firewall

• アクセス制御:既定の通信のみを通過. それ以外の不要な通信を遮断. 管理者が設定

#### IDS

通過する情報を精査し、不正行為を積極的に 発見. 管理者に通知

## 補完性 (Firewall と IDS)

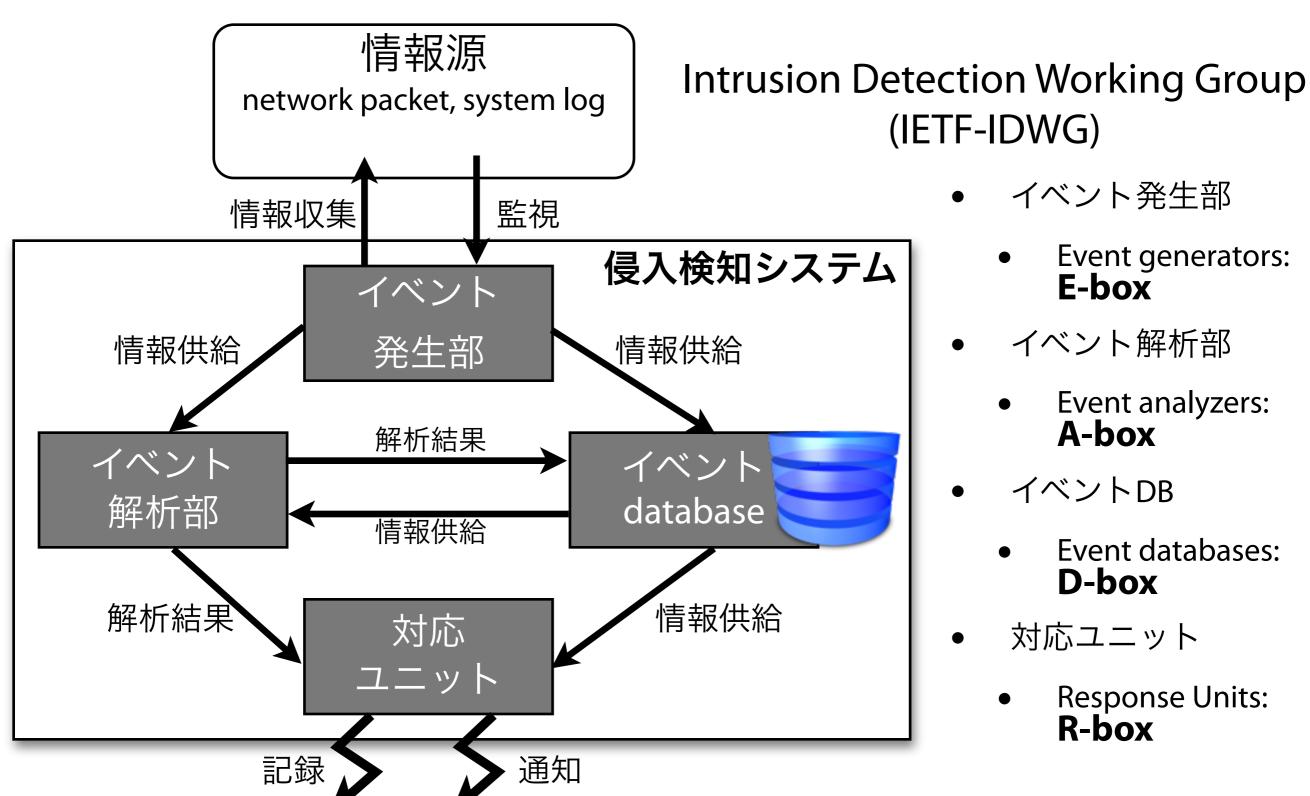
- Firewall ⇒ アクセス制御
  - 事前に決定された規則に基づく制御
  - 例:空港でのパスポートコントロール
- IDS ⇒ 不正の検出
  - 与えられるデータから不正を見つける
  - 例:空港での手荷物検査

## Anti Virus softwareとの違い

- Anti-Virus Software
  - Malwareの検知、駆除
    - 電子メールの添付file、計算機内fileから Malwareを発見、通知、駆除
- IDS
  - fileの有無に限定せず、またマルウェアだけに限定せず、不正行為を検出、通知する

Malware = Malicious software(悪意あるソフトウェア)の省略形

## IDSの概念モデル



(IETF-IDWG)

- イベント発生部
  - Event generators: E-box
- イベント解析部
  - Event analyzers: A-box
- イベントDB
  - **Event databases: D-box**
- 対応ユニット
  - Response Units: R-box

## IDSにおける3つの特徴軸

- 監視対象 (入力情報)
- 検知手法
- 設置場所(配置方法)

## 監視対象

- 監視対象 = IDSへの入力情報
  - Network を対象
    - 入力: Network packet
    - <u>Network-based IDS</u> = **NIDS**と呼ばれる
  - Host (計算機内の情報) を対象
    - 入力: files、system logs、resource usage
    - <u>Host-based IDS</u> = **HIDS**と呼ばれる